

 幼児教育に関する大規模縦断調査

2026 小学校調査



5歳児からの追跡調査

幼児期・幼保小接続期の教育が及ぼす影響
を明らかにします！



東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) は、文部科学省からの委託を受け、2024年から「幼児教育に関する大規模縦断調査」を実施しています。

この調査は、令和6年度時点で5歳（年長）児の調査対象児を追跡して、日本の幼児教育・保育及び幼保小接続期の教育のどのような特徴が、子どもの発達や小学校以降の学習・生活にどう影響を与えるのかについて明らかにするものです。

幼保小接続期の教育・保育の重要性や国が重点的に支えるべき点を実証的に明らかにし、今後の教育政策形成のためのエビデンスを提供することを目指します。

※「縦断調査」とは、同じ人たちを複数時点に渡って追跡する調査のことです。



保護者



小学校の先生



調査方法



Webアンケート



全国の大・中・小規模の自治体(抽出)において実施



本調査は、幼児教育や保育、架け橋期（幼保小接続期）の経験が、家庭での経験と相まって、子どもの認知・非認知能力の長期的発達に与える影響を明らかにすることを目的としています。海外の先行研究や国内の知見を基に慎重に設計された調査であり、これから先、混沌とした時代をたくましく生き抜いていかなければならない子どもたちの成長を支える重要な研究です。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

本事業研究代表 東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤 利彦



推薦コメント



子どもの成長と教育の関係を解明し、幼児教育や小学校教育の質向上に寄与する重要な取り組みです。

白梅学園大学大学院 客員教授 無藤 隆 先生



日本で初の大規模かつ長期的な調査であり、国が重要視する取り組みの一つです。教育現場の改革や改善に役立ちます。

学習院大学 教授・東京大学 名誉教授 秋田 喜代美 先生



Q&A



どんな調査？

園（就学前教育・保育施設）に通う5歳児（年長児）のお子さんを追跡調査し、幼保小接続期の教育・保育がお子さんの成長にどのような影響を与えたかを大規模データの分析によって明らかにします。縦断調査とは、同じ人たちを複数時点に渡って追跡する調査です。対象者には毎年1回、協力依頼が届きます。

どうやって調べるの？

2026年度は、調査対象児の保護者、および調査対象児の在籍する全国の国公私立の小学校にご協力いただき、以下の方々を対象としたWebアンケート調査を実施します。

- 2024(令和6)年度の調査にご協力いただいた、小学2年生のお子さんの保護者
- 上記のお子さんが在籍する小学校等の校長先生、担任の先生

アンケートで何をきかれるの？

保護者の方と、学校の先生とで、お尋ねする内容が異なります。

保護者

お子さんの成長、家庭での生活習慣など

小学校の先生 (校長・担任)

学校の特徴や取り組み、クラスの教育実践など

個々の学校や個人が公表されることはあるの？

アンケートはWeb上で個別に行っていただくため、他の人に回答を見られることはありません。また、個々の学校や個人が分からないかたちにして集計・解析されますので、調査結果から個々の学校や個人が特定されることは一切ありません。



東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター (CEDEP)

住所

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 教育学研究科内

調査の詳細

https://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/contact_mext-2023

